

令和4年度 第3回奈良県地域医療対策協議会 議事録

日時：令和5年3月6日（月）18時～19時

場所：奈良県庁医療政策局長室（WEB会議）

出席委員：別紙名簿のとおり

欠席委員：車谷 重高 委員（天川村長）、並河 健 委員（奈良県市長会会長）、
山中 忠太郎 委員（奈良県病院協会副会長）

事務局（木村補佐）：定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第3回奈良県地域医療対策協議会を開催させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

1点お願い事項がございます。

会議中は、カメラはオンにいただきまして、マイクは発言される時以外は、オフにいただきましてようご協力をお願いいたします。

本協議会でございますが、委員数は全員で13名となっております。

本日は、過半数を超える10名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、奈良県地域医療対策協議会規則第5条第2項に基づきまして、本日の会議が成立していることをご報告申し上げます。

開催にあたりまして、本会議は「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき審議会等の会議は原則として公開しておりますが、本日の議題3「令和5年度県費奨学生医師の配置案」については、人事管理に係る事務を取り扱っており、奈良県情報公開条例第7条の6に該当するため、非公開とさせていただきますと思いますが、非公開の決定は本協議会において決定することとなっております。

本日の議題について、非公開とさせていただきますと思いますが、委員の皆様方、何か意見はございますでしょうか。

各委員：非公開で異議なし。

事務局（木村補佐）：それでは、本日の会議の議題3「令和5年度県費奨学生医師の配置案」については、非公開とさせていただきます。

それでは開催にあたりまして、奈良県医療政策局長の平よりご挨拶申し上げます。

平委員（県医療政策局長）：医療政策局長の平でございます。

本日は大変お忙しい中、令和4年度第3回地域医療対策協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、新型コロナウイルスへの対応にご尽力いただき、心から敬意をあらわすとともに、深く感謝申し上げます。

本日は3つの議題についてご意見をいただく予定です。

1点目は、令和6年度に研修を開始する臨床研修募集定員の設定について、2点目は、基礎研究医募集定員の設定について、3点目は、令和5年度の県費奨学生の配置についてでございます。

臨床研修募集定員に関しては、昨年から3名減の128名の募集定員が上限として示されておりますので、各病院への配分を協議いただきます。

県費奨学生に関しては、126名の県費奨学生の配置案について協議をいただくこととしています。

本日の協議会をより良いものとするためにも、忌憚のない意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局（木村補佐）：ありがとうございます。

では続きまして、本日ご出席いただいております委員の皆様方のご紹介でございますが、事前にお配りしております出席者名簿にて、ご紹介に代えさせていただきますしたいと思います。

また、天川村長の車谷委員、天理市長の並河委員、天理よろづ相談所病院長の山中委員が、所用のため欠席とご連絡いただいております。

事務局（木村補佐）：それでは、議事に入ります前に、本日の資料の確認をお願いいたします。

資料は事前に郵送させていただいておりますが、次第、出席者名簿、本資料が1から4までと資料3の別添、参考資料が1から6までございます。郵送漏れや、資料のページ漏れがございましたらご連絡いただけたらと思います。

それでは、会長をお願いしております奈良県立医大病院長の吉川先生、お手数ですが、以後の議事の進行について、よろしく願いいたします。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：奈良医大の吉川です。

委員の皆様方、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

冒頭に平局長からもご紹介ありましたように、本日は3つの議題について、審議をいただくことになっておりますので、よろしく願いいたします。

それでは早速、議題1の「へき地診療所への医師の配置について」、事務局の

方から説明をお願いいたします。

事務局（東本）：事務局から説明させていただきます。

資料1 説明

説明は以上です。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございました。

奈良県のマッチング率は、8年ぶりに90%を下回ったということで、来年度は、また復活するように、先生方にご尽力をいただければと思います。

令和6年度の募集定員案については、資料にあるように、募集定員よりも希望数が3名多かったということで、人数調整をしていただいて、128名の募集定員ということになっております。

令和6年度の募集定員の設定案について、委員の先生方からご意見ございますか。

赤崎委員（奈良県医師会理事）：先ほど事務局からご説明ありました、マッチング率が低下したことについて、今後、奈良医大生を対象に説明会をするとおっしゃっていましたが、マッチング率が低下するということに対する、具体的な調査というのはどうなんでしょうか。

今後、もし同じようなことが起こったときに、大学に応募しない理由がわかっているならば、具体的な対策も講じれるのではないかと思いますので、意見を述べさせていただきます。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：赤崎先生、貴重なご意見ありがとうございます。

これに関しては、研修医へのアンケート等を行っております。

この辺の状況について、赤井先生いかがでしょうか。

赤井委員（奈良県立医科大学地域医療学講座教授）：赤崎先生ご質問ありがとうございます。もちろん私たちも大変危機感を持っております。今まで比較的良好なマッチングの状況でしたので、このまま行くんじゃないかという気の緩みがあったのではないかと反省をしております。

その一方で、学生たちの意識がどうなのかというようなことについても、いろいろとアンケート調査等させていただきました。

アンケートがどの程度本音を表しているかというところについては、解釈が難しいところもありますが、1つ分かったことは、今までの、私たちが育て

きた、あるいは例えば15年前ぐらいに研修医たちに通じたことが、今の学生たちにはなかなか通じにくくなっているというところがあるかと思います。ここからは、私の個人的な意見も含まれ、かつ、アンケートの結果も踏まえたコメントですが、働き方改革等にも表されるように、医師がボランティア的なことも含めて、がむしゃらに働いているのが当たり前という状況が、今や学生たちには全く受け入れられないということです。

例えば、カンファレンスが17時以降にあった時に、研修医から当然のように時間外手当を出してくださいというような要求がされるということが起こっています。

つまり、大学の働き方というのは、時間ということについてあまり気にせずに働いてきており、それによって、私たちは地域の患者さんたちを守ってきたという自負もありますが、もはやそれが通じないというような状況になっているので、その辺りに対応していかないといけないということがあります。

マッチング率の低下について、何が原因なのか、それに対する対応はどうしているのかということについては、例えば、研修センターの当直室を個室化するということをすでにやっております。

また、アメニティ、あるいは福利厚生的なことについても、できるだけ研修医とその他の医師に差がないようにしていくことが必要と考えます。

それから、時間外手当の支給についても、今までよりも少し広く考えないといけないということで検討を始めています。

さらには、研修医からも意見を聞いて、研修医が何を考えているのかということ、いち早く察知することを考えております。

できることはしていこうと思っておりますが、それがマッチングの結果に反映するかというところは、大変心配しております。

少なくとも私たちが、今の研修医のマインドに近づいていくということが必要なのではないかと思います。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：赤井先生がおっしゃったように、いろんな面で改善策を図っております。

これは医大だけではないかと思うんですけど、コロナがあつて、なかなかコミュニケーションが取りづらかったり、十分な説明ができなかったりというところが、マッチング率の低下にも、関与してるのかなと思っております。

十分なコミュニケーションを取って、しっかりと指導していくことが必要ということで、いろいろ先生方にもお願いしております。

松本委員（南奈良総合医療センター院長）：奈良医大の学生を対象に説明会を行うという話がありましたが、これまでは奈良医大生の県内残留が多かったけれども、残留する人が減ってきている、流出しているという傾向があるのでしょうか。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：はい、残留率の低下や大阪などの県外からの流入など、従来と少し異なる傾向も、見られてるのではないかと思います。

松本委員（南奈良総合医療センター院長）：ありがとうございました。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：その他いかがでしょうか。
それでは事務局から示されました、令和6年度から研修を開始する臨床研修募集定員の設定案について、この内容で進めていただくということによろしいでしょうか。

各委員：異議なし。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございます。
それではこの案で進めさせていただきたいと思います。
続いて、議題2「令和6年度に研修を開始する基礎研究医募集定員の設定案について」事務局から説明お願いいたします。

事務局（東本）：事務局から説明させていただきます。

資料2説明

説明は以上です。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございました。
令和5年度は、募集定員2名のところに4名の応募があつて、2名採用ということになっております。令和6年度も奈良医大に関しては2名の枠ということになっております。
これは科学研究費が多いところに1名プラスされて、2名ということで、奈良医大も研究成果が多いということが評価されて、2枠が設定されたということです。
スタディマインドを持った研修医の枠ということで、ぜひ優秀な学生を採用していただければと思います。

赤井先生、令和5年度の募集、あるいは採用についてはどうでしたか。

赤井委員（奈良県立医科大学地域医療学講座教授）：資料を見ていただくとわかるように、奈良医大は全国で一番応募者が多い結果となりました。

国公立の旧帝大といったところでも、応募者0であったりする中で、奈良医大は4名の方が応募してくださったということで、奈良医大の学生のリサーチマインドの高さというのを反映しているのではないかと思います。

また、基礎医学の先生方をはじめとして、学生の面倒を非常によく見ていただいているということが、功を奏しているのではないかと考えています。

4名面接をさせていただきましたけれども、いずれの方も非常に優秀な方で、もうすでに研究のテーマも決めて研究をしているというような方でした。

仕方なく2名ということでしたので、残りの2名の方は採用できないという通知をしましたけれども、そのうちの1名は、4月からの研修医1年目から大学院に入って研究を始めるということです。基礎研究枠ではないですけれども、そのような道を進んでいきたいということを伺っております。

本来であれば、もう1人ぐらい枠を増やして欲しいところですが、多分これはいくら言っても仕方ないと思いますので、2名いただいたということでありがたいと考えております。

引き続き、基礎の先生方と連携しながら、この枠を埋めていけるように考えていきたいと思っています。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございました。

何か研究枠についてご意見等ございますでしょうか。

それでは、令和6年度に研修を開始する基礎研究医募集定員の設定案について、この内容で進めさせていただくということによろしいでしょうか。

各委員：異議なし

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございます。

続いて、議題3「令和5年度の県費奨学生医師の配置案について」事務局からご説明お願いいたします。

—議題3 非公開—

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：それでは次に、その他報告事項とし

て、「令和5年度地域医療対策協議会スケジュールについて」事務局よりご説明お願いいたします。

事務局（折野）：事務局から説明させていただきます。

資料4説明

説明は以上です。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございます。例年より忙しくなりますが、ご協力お願いいたします。
事務局から他に報告事項はございますか。

事務局（折野）：引き続き、事務局から1点報告させていただきます。

前回の議題で挙げさせていただきました、臨床研修病院の指定についてですが、香芝生喜病院においては令和5年1月1日付けで指定いたしました。
また、生駒市立病院において、研修体制の見直しが必要と考えられるため、今年度中の指定を保留といたしまして、来年度も審査を継続したうえで、改めて、地域医療対策協議会にお諮りしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：ありがとうございました。

ただいま事務局から報告のあった内容について、ご意見等ございますか。
本日の議題は以上となりますが、何か全体を通じて、先生方からご意見等ございますでしょうか。

各委員：意見なし

吉川会長（奈良県立医科大学附属病院病院長）：会議の中で少しあったマッチングについて、研修医の指導体制は時代とともに変遷してはいますが、先生方、ご指導のほどよろしくお願いいたします。
それでは特にご意見ないようでしたら事務局の方にお返しいたします。

事務局（木村補佐）：吉川先生、ありがとうございました。

本日は、活発かつ貴重なご意見いただきましてありがとうございました。
これをもちまして、令和4年度第3回奈良県地域医療対策協議会を閉会とさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、この1年間で3回にわたり、非常に重要な

内容についてご議論いただきまして、ありがとうございました。
また、来年度は回数が多くなりますけれども、引き続きよろしく願いいたします。
本日はありがとうございました。